



秋田大学医学部附属病院
総合診療医センター
Akita University Hospital General Physician Center

〒010-8543 秋田県秋田市広面字蓮沼44-2
TEL:018-884-6428
<https://www.hos.akita-u.ac.jp/gpcenter/>



各種SNSで情報発信を行っています。



@akita.GPC



@831rilxm



akitagp



@akita.GP



GP NET
東北日本海側総合診療医ネットワーク

GP NET

(東北日本海側総合診療医ネットワーク)

<https://akitagpnet.org>



専門研修プログラム連携施設・診療参加型臨床実習施設など総合診療医センターとかかわりがある施設をネットワークで結びGP NET(東北日本海側総合診療医ネットワーク)として秋田県、青森県、山形県の日本海側に位置する医療機関を中心に、宮城県や千葉県も加わった広域ネットワークを構築しています。

意見交換・情報共有などを行い、指導体制が充実した地域実習の提供や研修プログラムの整備・提供を行っています。

ドクターのブログ、イベント情報なども多数発信しています！

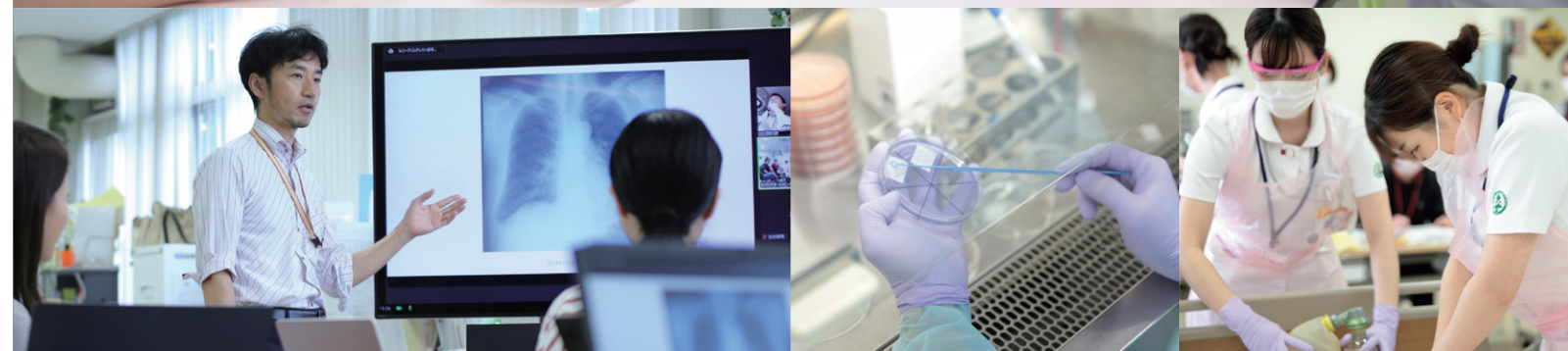


秋田大学医学部附属病院
総合診療医センター

Akita University Hospital General Physician Center

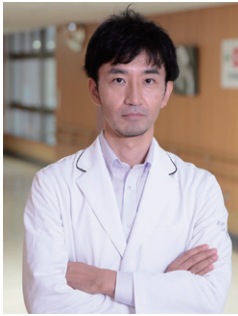
地域を支える

【総合診療医】を目指して。



INTRODUCTION

はじめに



多くの医師が、その道を選ぶときに、「ひとりでも多くの人の役に立ちたい」と思っているはずです。

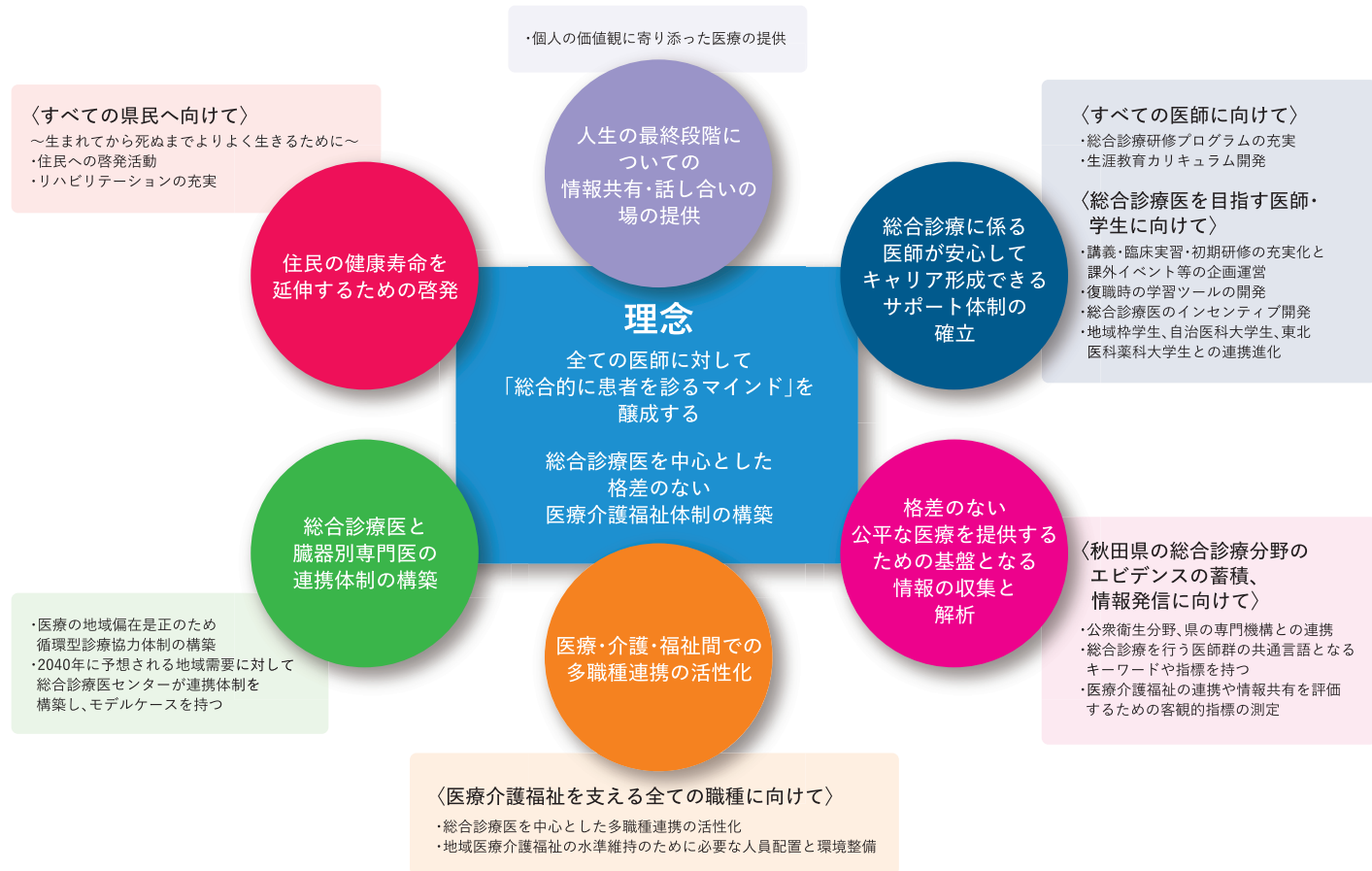
総合診療医の解釈は色々あるかもしれませんが、自分にとっての総合診療医は「患者さんとその家族、地域のニーズに応える努力を継続して行く医師」だと思っています。秋田にはそんな医師がたくさんいて、今この瞬間も、医療の最前線で頑張っています。

これまで地域包括的な医療に携わる医師の多くは、仲間を探すことからスタートして、道なき道を開拓してきたように思います。もっと「総合的に診る専門性」を高めるためのシステムがあったら素敵ですよ。当センターは、全ての医師に総合診療のマインドを涵養し、つなぎ、育てるという目的のために発足しました。

みなさんといっしょに楽しく学びあいたいと思っています。どうぞお気軽に当センターを使ってください！

秋田大学医学部附属病院総合診療医センター長 植木 重治

センターの理念・目的・目標



VOICE

指導医の声

将来の医療に大きく貢献する

高度救命救急センター 助教 佐藤 佳澄先生

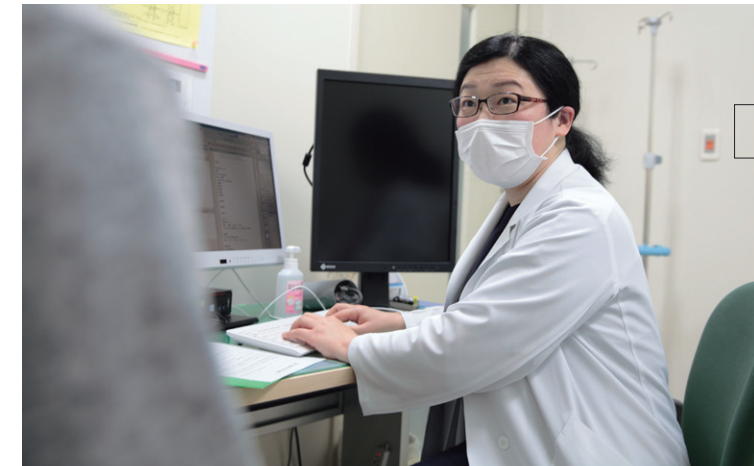
全国的にジェネラリストとしてキャリアをスタートさせる医師が増えている中、秋田県は遅れを取っています。救急・集中治療という側面を切り取ってもマンパワー不足で、郊外ではより顕著です。地域によって救えるはずの患者さんを失ってしまうことのないよう、医師や病院の少なさを補う診療体制など特有の仕組みを考えていきたいと思っています。都市なら助けられたのに、という事態をなくしたい思いで頑張っています。



診断困難症例の対応でより高い診療能力へ

総合診療・検査診断学講座 助教 嵯峨 亜希子先生

総合診療医センターという人材育成のシステムにおいて、私は大学病院の総合診療部という診療部門で、他の医療機関で診断困難だった症例について診療しています。他の医師が適切に診療してもなお結論が出なかった症例が対象なので、よりきめ細かい問診が診断への糸口になると考えています。たくさんのエキスパートや設備が揃っている大学病院が秋田県民の最後の砦であるという気概を持って、診断を突き詰めるべく日々取り組んでいます。



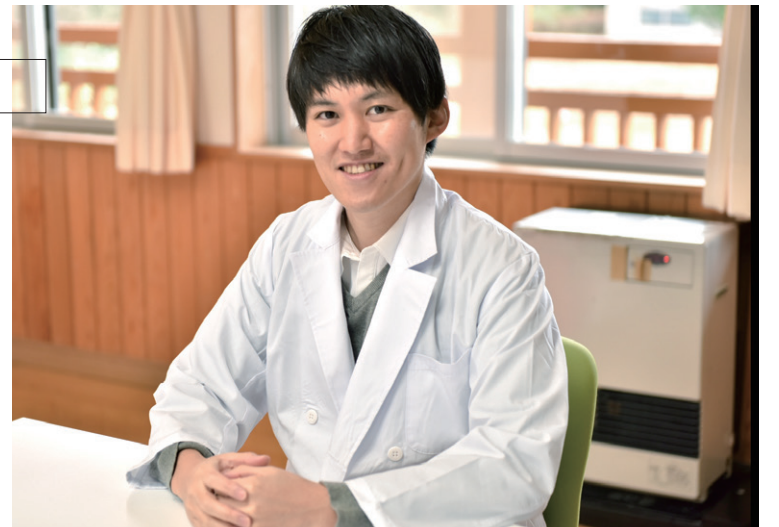
地域を見る

湖東分室／湖東厚生病院 漆畑 宗介先生

「総合診療医」とは、患者さんの病気だけでなく、心理社会面や家族も含めて(包括的に)診る医師のことで、日本では昔からかかりつけ医と言われていました。目の前で苦しんでいる患者さんの背景に広がる生活まで目を向けて診療をするのが総合診療医の醍醐味です。

私が特に取り組む分野は「地域志向ケア」と呼ばれる領域です。地域の健康問題に取り組む事は、目の前の患者さんはもちろん、より多くの方の健康に寄与することができます。

最近では健康問題に起因する社会的な要因も明らかになっており、私はその中でもソーシャルサポートの課題に取り組んでいます。多職種の方と連携し地域の健康に関わるのも総合診療医のやりがいだと思います。



VISION

センターのビジョン

背景課題

秋田県地域医療の課題

少子高齢化

- ・高齢化率日本一、人口減少率日本一

医師不足、医師偏在、診療科偏在化

- ・秋田市周辺への集中及び周辺地域の医療過疎化
- ・ジェネラリスト、外科医の不足
- ・総合診療医教育の体制整備、キャリアモデルの形成、広域ネットワークによる研修体制

秋田大学医学部のミッション

- 秋田大学の存立の理念及び医学部設置の理念等に基づき、地域医療を担う医師の養成を積極的に推進する。
- 秋田県や地域の医療機関、他大学等と連携し、県内の地域医療を支える人材の育成、確保を積極的に推進する。特に、高齢化が最も進行している秋田県において、卒前・卒後を一貫した総合的な臨床能力を有する医療人育成を推進することにより、高齢社会における医療モデルを構築する。
- 県内唯一の医育機関及び特定機能病院としての取組や都道府県がん診療連携拠点病院、基幹災害拠点病院、難病拠点病院等としての取組を通じて、秋田県における地域医療の中核的役割を担う。

取組のイメージ

秋田大学総合診療医センターの設置及び

GP NET(東北日本海側総合診療医絆ネットワーク)の構築

学内の連携体制

総合診療部

診断困難例や
渡航前診断にも
対応する
総合診療外来

総合診療・ 検査診断学講座

総合診療・診断学と
臨床検査医学の
臨床・教育・研究

男鹿なまはげ 地域医療・ 総合診療連携講座

男鹿市と連携し
地域医療人材
育成を支援する

高度救命救急 センター

秋田県における
救急患者の
最後の砦

総合診療医 センター

各セクションと連携し
総合診療医の
育成を支援

あきた医師 総合支援センター

医学生・医師の
キャリアアップを
支える

シミュレーション 教育センター

大規模・充実した設備で
シミュレーション
実習が可能

総合診療医センターの役割

- ◎主に地域枠学生を対象としたシームレスな実習・研修プログラムの策定
- ◎医師少数区域等、地域医療を担う医療機関でのバックアップ等体制整備
- ◎医学生・医師の総合診療医の多様なキャリアパスを構築支援

総合臨床教育 研修センター

秋田大学附属病院での
臨床研修等を
マネジメント支援

あきたGP NET 専門研修プログラム 連携施設

- | | | | |
|---|-------------------------------------|-------------------------------|--|
| 能代・山本 | 大曲・大仙 | 大館・鹿角 | 千葉県 |
| ・能代厚生医療センター | ・市立角館総合病院
・大曲厚生医療センター
・大曲中通病院 | ・大館市立扇田病院
NEW
・大館市立総合病院 | ・亀田ファミリー
クリニック館山(館山市)
・安房地域医療センター
(館山市) |
| 秋田周辺 | 横手 | 北秋田 | |
| ・秋田大学医学部附属病院
・中通総合病院
・秋田赤十字病院
・秋田厚生医療センター
・男鹿みなと市民病院
・藤原記念病院
・湖東厚生病院
・市立秋田総合病院 | ・市立大森病院
・平鹿総合病院
・市立横手病院 | ・北秋田市民病院 | |
| 由利本荘 | 湯沢・雄勝 | | |
| ・由利組合総合病院
NEW
・にかほ市国民健康保険
小出診療所 | ・雄勝中央病院 | | |

GP NET

(東北日本海側総合診療医絆ネットワーク)

秋田県、青森県、山形県の日本海側に位置する医療機関を中心に、宮城県及び千葉県からも加わって広域ネットワークを構築

- ◎指導体制が充実した地域実習を提供し、学生の医師少数地域等での実習促進
- ◎広域ネットワーク化した地域重点型研修プログラムの整備・提供

効果

- シームレスな総合診療医育成
- 教育の連鎖
- 地域医療体制の充実

入学前

- ・高校生向けセミナーの開催
- ・総合診療の魅力の発信
- ・選抜時の意向確認

卒前教育

- 臨床前医学教育 / 診療参加型臨床実習
- ・医学生の意向・指導状況の確認
- ・セミナーや地域医療実習などを開催する

卒後研修

- 初期臨床研修 / 専門医研修
- ・魅力的な選択肢を提示し、多くの医師が総合診療医を選択するのを支援

病院総合医

救急医

総合診療医

総合的な診療能力を
有する専門医

家庭医

生涯教育

- 学びなおしサポート
- ・勉強会の開催
- ・学びなおしの支援 など

秋田大学医学部

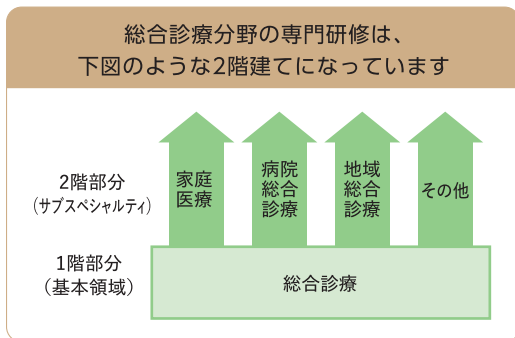
秋田県

秋田県医師会

PROGRAM

専門研修の紹介

秋田大学の専門研修プログラムでは、
「あなたのなりたい総合診療医」へ向けた
研修を行えるよう応援します。



あきたGP NET専門研修プログラム

研修期間:36か月
(日本専門医機構)

秋田県内のすべての二次医療圏にあって総合診療を実践している医療機関と連携し、医療・社会資源の異なるさまざまな地域での診療を経験することにより、高齢化社会において地域の医療とヘルス・プロモーションをマネジメントできる総合診療医の育成を目指します。

各地域医療機関の協力のもと、様々な医療現場で細やかなフィードバックを受けながら研修できる環境を整えています。

高齢化率・人口減少率が共に全国トップで医師の偏在も顕著な秋田県。高齢者が多い地方でこそ、領域別専門医が不足しがちな地方こそ総合診療医が必要です。

基本領域：総合診療

◆カリキュラム一例(総合診療専門研修のみを行う場合)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	小児科			救急科			総合診療専門研修Ⅱ					
2年目	内 科											
3年目	総合診療専門研修Ⅰ											

専攻医研修は臨床現場での学習・診療現場を離れた学習・自己学習の大きく3つに分けられ、基幹施設または連携施設の施設群で、それぞれの特徴を生かした症例や技能、診療に関わる情報などを広く専門的に学ぶことができます。

また、専攻医からのフィードバックを重視しプログラムの改善を行います。研修の順序、期間等は個々の希望や研修状況等を勘案し企画します。

サブスペシャリティ領域：家庭医療

秋田大学 家庭医療専門医育成 プログラム

研修期間:24か月
(総合診療との連動研修では12か月)
(日本プライマリ・ケア連合学会)

総合診療専門研修を基盤として、より専門性を高めたプライマリ・ケアの診療や地域に根ざした学術活動の基盤を身につけ、地域プライマリ・ケアのリーダーシップを発揮できる人材を養成を目指します。基本の研修期間は24か月ですが、1階部分の総合診療専門研修と同時に本研修を行った場合、総合診療の研修期間36か月に加えて12か月(計48か月)で総合診療と家庭医療の両方の研修を修了することができます。



サブスペシャリティ領域：病院総合医療

秋田大学医学部附属病院 病院総合診療専門医 プログラム

研修期間:12～36か月
(総合診療専門研修の研修施設により変動)
(日本病院総合診療医学会)

総合診療専門研修を基盤として、幅広い医学知識が要求される病院総合診療医学に基づく医療を提供し、その経験と学習および地域住民を対象とした教育活動への参加を通じて、さらに医療・介護・福祉にかかわる職種のリーダー(ホスピタリスト)として活動できる能力を修得することを目指します。

本プログラムでは秋田大学医学部附属病院に加え、県内3つの連携施設(2023年3月現在)で研修を行うことが可能です。

サブスペシャリティ領域：地域総合医療

市立大森病院 地域総合診療専門医研修 プログラム

研修期間:36か月
(日本地域医療学会)

総合診療専門医[※]取得後、現場にしながら地域の健康問題を俯瞰し、地域住民の健康を支えながら変革を推進するリーダーとして、地域における保健・医療・介護・福祉に関する包括ケアの一体的な実践を担う「ひとと地域をまろごと診る」医師を目指した研修を行います。

秋田県内では市立大森病院を基幹施設とするプログラムが開設されます。「あきたGP NET専門研修プログラム」とシームレスに研修を行うことが可能です。(2023年度より研修開始)

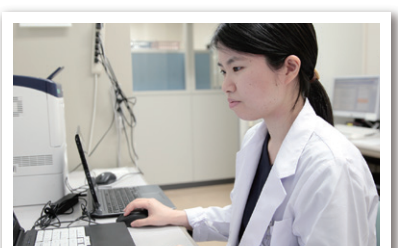
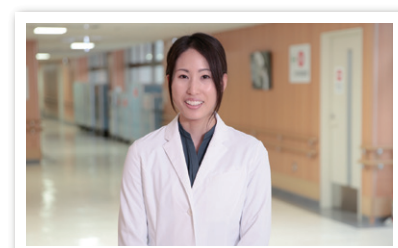
[※]幅広い分野を経験した内科・外科・救急科専門医も取得可能です。

その他、総合診療と関連した「在宅医療専門医」「緩和医療専門医」などについても秋田県内での研修が可能です。

サブスペシャリティを含めた研修のカリキュラムなど、詳細は当センターまでお気軽にお問い合わせください。

VOICE

専攻医 インタビュー



総合診療医という選択

総合診療/家庭医療専攻医 松本 奈津美先生

診療で困ったときに経験豊富な医師に相談すると、目から鱗が落ちるような答えをいただくことがあります。「医療的には正解なことでも、患者さんにとって最善の選択とは限らない」と日々感じています。特に高齢者の多い秋田では、最先端の治療が必ずしも最良の答えにならないことも多いです。そのようなとき、より適切な選択をするためにはしっかりとした技術があって、それを学ぶことができることが非常に面白いと思っています。



地域だからこそ活躍できる 総合診療医

総合診療/家庭医療専攻医 高橋 琴乃先生

県内の総合病院で働いて実感したことは、高齢患者の多さと、トータルマネジメントの必要性です。高齢者が多く、また領域別専門医が不足しがちな地域こそ、「その人全体を診る」総合診療医が求められるのではないかと私は思います。

総合診療医は、臓器や機能で区別せず、あらゆる健康問題を診ることができます。病気だけではなくその人自身を診ます。「この患者さんが住み慣れた地域で幸せに暮らしていくためには、何が必要か?」という視点をもって診療に臨めば、きっと目の前の患者さんの笑顔につながるはず。地域のみなさんの健康、そして笑顔を支えることが、地域医療への貢献になると私は信じています。

